

[成果情報名]米粉用・飼料用水稲品種「笑みたわわ」の特性

[要約]米粉用・飼料用水稲品種「笑みたわわ」は「ヒノヒカリ」と比べて、籾重で121%、精玄米重で115%と収量性に優れている。熟期は「ヒノヒカリ」より遅く、「ミズホチカラ」より早い。そのため作期分散が可能である。

[キーワード]水稲、笑みたわわ、ミズホチカラ、多収、飼料用、米粉用

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・作物研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4350

[区分]農産

[分類]指導

[作成年度]2020年度

[背景・ねらい]

近年、水田を有効に活用し、我が国の食料自給力・自給率の向上を図るため、飼料用米や米粉用米などの新規需要米の取り組みが推進されている。飼料用米や米粉用米として「ミズホチカラ」が栽培されているが、「ミズホチカラ」は成熟期がかなり遅いため、生産現場から熟期が早い早生の品種が求められている。

そこで、米粉用・飼料用品種として育成された「笑みたわわ」の本県での特性を明らかにし、専用品種作付け推進に資する。

[成果の内容・特徴]

「笑みたわわ(西海307号)」(農研機構九州沖縄農業研究センター育成)は「ヒノヒカリ」と比較して次のような特性を有する。

1. 出穂期で1日早く、成熟期で5日遅い。また、「ミズホチカラ」と比較すると出

穂期で6日早く、成熟期で18日早い(表1)。

2. 稈長は同等からやや長く、稈はやや太く耐倒伏性は同等(表1、表2)。

3. 穂長はやや長く、穂数はかなり少ない(表1、写真1)。

4. 玄米の千粒重はやや重く、1穂籾数がかなり多く、a当たり籾重は「ヒノヒカリ」対比121%、精玄米重は「ヒノヒカリ」対比115%と重い(表1)。

5. 玄米の外観品質は劣り、心白粒、腹白粒の発生が多い(表2)

[成果の活用面・留意点]

1. 本情報は農林技術開発センター内水田(中粗粒グライ土)で得られた結果である。

2. トリケトン系成分(ベンゾビシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン)を含む除草剤に対する感受性が高いので、それらを含む除草剤は使用しない(育成地情報)。

3. 葉もち圃場抵抗性が弱いため、種子消毒等慣行防除を徹底し、発生が見られた際には防除を徹底する(育成地情報)。また、紋枯病の発病程度が高いので防除を徹底する。

4. 白葉枯病に弱く、縞葉枯病に罹病性であるため、常発地での栽培は避ける。

5. ここでは栽培適性のみ評価しており、飼料用としての家畜の嗜好性評価、および米粉用としての適性は評価していない

【耕種概要】

移植6月14日、3本/株手植え、栽植密度30cm×15cm、窒素施肥量(kg/a)は多肥(基肥0.75-追肥0.2-穂肥0.45)

[具体的データ]

表 1 生育および収量と倒伏の発生

品種	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)	1穂 粒数 (粒)	籾重 (kg/a)	精玄 米重 (kg/a)	標準 比 (%)	屑米 重 (kg/a)	千粒 重 (g)	倒伏 程度
笑みたわわ	8/19	10/8	89.1	22.0	11.4	150	89.7	63.2	115	4.4	23.8	0.9
ヒノヒカリ (標)	8/20	10/3	86.4	20.6	16.7	90	74.4	54.8	100	5.7	22.5	0.9
ミズホチカラ (比)	8/25	10/26	75.9	21.3	12.5	142	82.2	53.4	97	7.5	23.3	0

注)数値は2018～2020年平均値、ただし「笑みたわわ」の1穂粒数は2019年の数値、倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階評価

表 2 その他の特性

品種	紋枯病発 病程度	玄米品質	心白粒 (%)	腹白粒 (%)	稈の細太	稈の剛柔	粒着密度
笑みたわわ	0.9	8.5	16.7	29.2	やや太	やや剛	密
ヒノヒカリ (標)	0.3	5.4	8.7	1.3	中	中	中
ミズホチカラ (比)	0.7	7.9	13.3	15.4	やや太～太	剛	密

注)数値は2018～2020年の平均値、紋枯病発病程度は0(無)～5(甚)の6段階評価、玄米品質は1(上の上)～9(下の下)の9段階評価、心白粒、腹白粒は100粒2反復目視調査、その他の稈の特性は2020年調査



写真 1 出穂後の「笑みたわわ」

[その他]

研究課題名：稲・麦・大豆奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：2018～2020年

研究担当者：中山美幸、古賀潤弥